

第5回桐生市総合戦略推進委員会ワーキンググループ 概要

資 料

	提案された 施策・事業	提案内容	第5回における委員意見
1	移住・定住に関するワンストップ窓口の設置	○移住だけでなく、子育て、住宅、仕事など全ての相談窓口となる移住コーディネーターを業務委託する形で設置する。 ○運営は民間団体、コーディネーターは移住者等を想定。 ○桐生ならではの特色として、開業・独立希望者層にメインターゲットを設定する。	○（山本委員の提案に対して）非常に具体的で、他の委員の意見を包含した提案であるのでこのまま実施できたらいいが、市の予算等を勘案してできる事業とできない事業があると思うので、その辺りを示してほしい。
	移住・定住に関するポータルサイトの開設	○移住・定住に関する情報を分野横断で掲載・更新を行う。 ○問い合わせ情報をFAQや掲示板のような形式で公開する。 ○桐生の魅力を伝えるコンテンツ（移住者インタビュー・コラム等）を掲載する。	
2	きりゅう暮らし応援事業の利用促進	○利用した人だけでなく、利用していない人両方の声を吸い上げ、もっと利用したいという内容にブラッシュアップする。 ○空き家バンクの更なる情報発信、あらかじめリフォームした空き家の貸出又は販売、リフォームした空き家をお試し移住に利用するなど、旧市街地の空き家を利活用することで補助金を受けやすくする。	○制度自体を知らない人も多いので、周知することが重要。 ○特にリフォーム補助金については、申込み開始早々終了してしまうくらい利用する人がたくさんいるので、枠を増やすなど拡大を検討してほしい。
3	まちなかにおける生活の核となる施設の整備	○まちなかにスーパーなどの生活の核となるような施設がないので、そこで生活が全て間に合うような街並みが必要である。スーパーやドラッグストアを誘致するにしても、人口が減少する前に手を打たないと手遅れになって出店自体が危うくなってしまう。買物の利便性が良くなれば、おのずと周辺人口は増える。	○3番と4番は一括して議論していい。特に旧市街地はまとまった土地がないので、市が公共用地の利活用を素早く積極的に進めてほしい。
4	公共施設の利活用	○現在有する公共施設、公共用地などの使用していない、若しくは使用の少ない物件について、早期に賃貸又は売却を進めることにより、資金を生み出し、その資金を他の人口減少対策に充てて更なる事業を進めてほしい。	

	提案された 施策・事業	提案内容	第5回における委員意見
5	3歳未満児の 保育料無償化	○現在無償化の対象となっていない3歳未満の子どもの保育料を無償化する。	○3歳未満児の保育料無償化に限らず、小中学校における給食費の無償化、算数セットやピアノ等学校用品の共有化などの大胆な事業があると、桐生市は教育に力を入れているということで移住のインセンティブになると思う。 ○予算上難しいとよく言われるが、どうすれば予算が確保できるのかを考えてもらいたい。
6	桐生を好きな 子どもを育て る取組の実施	○学校で「桐生の好きなところ」や「桐生で初めて行った場所」などの作文や絵を描き、コンテストをするなど、まずは子どもたちに地元桐生を知ってもらい考える機会を設ける。さらに、子どもたちが思う桐生、もっとこうなったらいいという意見が出るという。	○まずは桐生を知って体験するというところから、桐生の好きなところを考えるなど、アウトプットする取組ができたらい。
7	小学校や学童 でのいじめ、 いじわるの解 消（特に学 童）	○いじめやいじわるを解消するとともに、子どもたちが無理に行かないよう、また、子どもたちの興味が広がるようなコンテンツの提供など、環境整備を強化し、民間やNPO法人、外部リソースも活用して内部の職員の苦労も軽減するような形で、子どもたちがのびのびと、いきいきと放課後を過ごせる地域として全国から注目を集めるような活動にして、外に対しての魅力発信を強めてほしい。	○元気な子育て世代や若者などと何か連携し、色々な大人の目が入ることで、いじめやいじわるが減り、支援員の負担も減ると思う。また、色々な刺激を与えることで質の高い学童保育という付加価値を付けてPRできる。 ○学校の長期休暇時などはお弁当持参になるが、保護者のお弁当を作る負担と支援員の注文する負担を軽減するため、アプリなどで気軽に注文できるようになるといい。このようにITを絡めて一歩進んだ付加価値を付けられるといい。